



# 柳田國男の思想と日本の将来—環境の問題を中心に

名古屋大学大学院環境学研究科 教授

川 田 稔

自然と人間の共生の問題に柳田さんの学問をベースにした思想が、これまでの日本人がもっておった自然観、これからの日本人社会の将来にとって、未来の日本社会だけではなく、少し広い意味を考えていくのが今日のお話のメインです。

環境倫理に関して、第一は、人間だけでなく自然も固有の存在価値をもつという考え方、したがって自然は人間のために存在するものではない。第二は、現在の世代は未来の世代が充実した生をおくる可能性を狭めてはならない。いわゆる世代間倫理といわれるもので、柳田さんの今日のお話でこの点が重要になると思います。環境倫理の第三に、自然の生態系は有限なものであり、その再生力の意識的な保持が目的より優先する。この三点が環境理論と一般に言われているものです。これらの点について、これまでの日本人がどのように考えてきていたのかということ柳田さんの書物を通してみ

ていこうということです。

(中略)

環境倫理の第一ですが、自然は人間のためにあるのではなく、それ自身に存在価値があるという自然観です。それにより世界で一番の工業化を進めているにもかかわらず、実は膨大な自然が残されている。

ご存知の通り、日本人の自然観はこういういわばプラス面と、環境倫理には問題があると指摘しています。柳田さんは先ほど申し上げたような自然観、それ自身が固有の存在価値を持つとしています。それが強いのは日本人の持つ宗教意識基調にある自然観、氏神信仰がベースになり、できています。

(中略)

環境倫理の第二、柳田さんは日本人の倫理観において、世代間倫理はきわめて強いというのが特徴だということ述べています。現在の世代は未来の世代が充実した生を送る可能性をせばめてはならない。これは

環境立地論の二番目、世代間理論です。柳田さんによりますと、日本人の村意識は、いわば次の世代の人生の可能性を狭めてはいけないだけでなく、むしろ現在に生きている我々の使命、生きる目的は、それは次の世代がよりよい生活をする。これが実は日本人の場合が一番大切な生きる目的なのです。

(中略)

ではこういう世代間倫理とは何か。それは先ほど申し上げたものですが、その前に環境倫理の第一にあげました人間だけでなく自然も固有の存在価値をもつ。自然は人間のためだけにあるんじゃない。それ自身存在価値があるんだということです。柳田さんはこの見方も日本人の自然観だといっている。

(中略)

では、氏神信仰というのは申し上げた世代間倫理や自然観とどういう関連があるのかというお話をしたいと思います。(中略)一般的に日本人の文化とか物の考え方は仏教と神道で形成され、近年に入ってヨーロッパの思想によって形成されている。おもにこの三つで形成されています。

この神道を柳田さんは、大きくは

古事記・日本書紀をベースにする神道と、村の氏神様による神道をベースにする神道とに大きく二つに分けています。(中略)柳田さんの重要な学問的貢献は、神道に二つの種類があって、村の氏神信仰というものが、神道の中で重要な意味を占めており、それだけではなくて普通の日本人の物の考え方は、古事記とか日本書紀

でなくて、村の氏神信仰で形成されているということなんです。(中略)古事記や日本書紀をベースにしている神道では村の氏神様は、基本的には古事記や日本書紀に出てくる神様だと

それまでずっといわれてきたが、柳田さんはそうではない。村の代々の祖先の霊が融合したものだとも明らかにした。これが最大のポイントで、自然観だとか世代間倫理につながっていきます。

氏神は祖先の霊の融合体なのです。人が亡くなるとすぐ氏神になるのではなく、村の氏神様になりますと融合していくのです。柳田さんは一般の人々の聞き取り調査から、頭の中でその世界をどのように考えているかといいますと、どうも一定の時間子孫の供養を受けて氏神になっていく。一定の期間の後に氏神になると考えているわけです。そして日本神

道の靈魂観には三つのタイプがあるとみている。

(中略)

氏神となった靈魂。一つは子孫の供養を受けて氏神になる途中にある靈魂。もう一つは子孫の供養を受けられないで妖怪になっていく靈魂。この三つの靈魂観があるというのが実は重要な意味を持つ。

(中略)

こういう氏神信仰の考え方によりますと、実は子供も老人も障害を持つ人もすべて亡くなれば子孫の供養さえ受ければ神になる。ここを柳田さんは強調しているのです。(中略)そのためには、子孫の供養が必要だということがありますので、家の永続ということが絶対的に必要なので。(中略)自分の子孫を考えると、いうことは一種自分の家族や子孫の利益のみを考えるエゴイスティックなものと考えられやすいですが、それは視野が狭いのです。本当に自分の子供のことを考えると、自分の子供の直接の利益じゃなくて、自分が、子供が将来その世界で生きていく社会、自然を当然考えるようになる。視野を狭めるのではなく、視野を広めると、そういう観念がかつては

あったのです。

ここまでで世代間倫理の話は終わりたいと思います。

(中略)

第一点の、自然が固有の価値を持つという自然観。これは日本人にも非常に強いことだと柳田さんは考えています。ただしその固有の価値を持つという自然観はよくアニミズム的要素があるといっている。先ほど氏神は霊の融合体であるとお話しましたが、それが山の頂にいて、お祭りのときに降りてきて、そしてまた帰っていくという観念がある。その神がいる山、神域という神聖な観念があるのを神聖視した。それだと山の中の話で、下層の自然とは関わらないのです。柳田さんの考えはこういう考え方なんです。山の頂きにいる氏神は見えないのです。形をもたないのですから、里に下りてくるのに何が必要かといいますと、寄代(よりしろ)が必要なのです。(中略)

憑依する可能性のある自然物は神聖性があるという考え方です。要するに、自然物そのものに神聖さが内在しているという考え方ではないのです。神聖なものはいくまで氏神であって、それが憑依したら、憑依した自然物、憑依する可能性がある里

た自然物、憑依する可能性がある里

の自然物が神聖さをもつという考え  
方です。

(中略)

欧米の自然観は、人間が生活して  
いる領域と自然が生活している領域  
を分けて、現在では自然の生活して  
いる領域を人間の生活している領域  
と切り離して保護する。(中略)日本  
人の場合は自然が生活の中に入り込  
んでいて、その自然が神聖性を持っ  
ているものなのです。しかし生活を  
しなければならぬので、許されて  
いる範囲でこれを利用していくとい  
う観念で、生活と自然がうまくみ  
合っている。

(中略)

個人の自覚と自立です。個人が社  
会に埋没しているような古い世界を  
変えようとしている。そのためにも  
親は子供達に、自分がもうできない  
ですむような苦しみを経験として次  
の子供達に生かしている。以前は  
いわば貧困しかなかったのですけ  
れど、現在はもう一つ教育というもの  
があるのだとここで言っている。柳  
田さんの考え方は教育とは世代間の  
検証のシステムである。世代間倫理  
を基本のところで伝えていく必要が  
あったんじゃないのかなという感じ  
です。よく言われていることですが、

柳田さんは教育とは、学校教育だけ  
でなく、地域の教育についても、単  
に村だけでなく、その村に子供組と  
か、若者組とかの小集団があって初  
めて村が活性化するという考え方で  
す。そこでの教育というものも考え  
ている。それからもちろん家庭のこ  
とも考えている。そういう広い意味  
での教育によって、さっき述べたよ  
うな世代間倫理というものを継承し  
ていく、これ自体がまた世代間倫理  
です。柳田さんの考え方に一番強い  
ものは世代間倫理です。

(中略)

それと、もう一つお話ししておき  
たいと思うのは、柳田さんは氏神信  
仰があったような村の世界がいいと  
感じていたのかといいますと、そう  
ではなく、近代化というのは一種の  
工業化で、それがいいか悪いかを超  
えて、やはり自然としてというか宿  
命というか、技術が進歩していき、  
ある程度社会も変わっていかざるを  
得ないときに、その時にかつての循  
環的な社会というのはどうやって活  
かせるかという考え方です。柳田さ  
んのポイントは、現在、柳田さんが  
生きていた時代で一番の問題という  
のは、ヨーロッパ型の生活がそのま  
ま日本に入ってきたことです。

(中略)

ヨーロッパの文化としてイメージ  
している欲望充足型、資源消費型の  
生活スタイルでいくと、戦争の道に  
進む可能性がある。柳田さんからみ  
ると破滅の道なのです。ではどうす  
ればよいのかといいますと、それを  
二つの方向で考えている。一つは外  
から強制する。消費を外から強制し  
て制限する。こういうやり方は個人  
を制限する。柳田さん自身は個人の  
自由の生き方というのを遵守し、個  
人の選択ということを考え、個人の  
内面を尊重しますから修正経済論の  
方にいきます。じゃ資源消費型の生  
活スタイルをどのようにして変える  
のか。(中略)欧米の生活スタイルで  
いきたいと考えることは、本当に自  
分たちが何のために生きるのかとい  
う考え方からもう一度考え直してみ  
るべきではないか。それ以上のこと  
はいってないのですけど、人間の生  
きる意味というのは必ずしも物質の  
豊かさだけではないんじゃないかと  
いうことで、さっき氏神信仰の話で  
述べた世代間倫理の観点からすれば、  
コントロールできるのではないかと  
考えています。

最初に世代間倫理に三つあって、  
その三つ目の自然観について、自然

の生態系において有限の存在である  
(環境倫理の第三)。柳田さんはこれ  
に問題があったという風に考えてい  
る。まず結論からいいますと、日本  
は非常に自然保護率が高い。森林率  
が六十八%と工業化した国でまれに  
見る率ですけれど、非常に公害が多  
い。(中略)これはさっきいった自然  
の有限性ということにやっぱり問題  
がある。氏神信仰で形成された日本  
人の自然観の中に問題があったの  
じゃないかということです。それは  
自然というものがさっきいったよう  
にある神聖なものと関連して管理さ  
れています。その自然にある限界性  
があるということに気づかされにく  
い。つまり自然に再生力の限界があ  
るといふ観念ができづらい。(中略)  
その神聖さが取られると限界がある  
という観念がないので、無限に破壊  
というのが出てくるのです。それが  
急速に出たので、逆にその後いろい  
ろあって現在ようやく治まってきて  
いるのです。そういう問題もあると  
いうことです。

(中略)

日本人はやはり自分の生き方を考  
える時に自分の子孫とか自分のいる  
地域からしか考えていない。ヨー  
ロッパのキリスト教は、世界は何の

ためにあるのだろうか、神が作ってくれた世界は、何のために神が作ったのかという問いがあるというのです。日本人は我々の生きている生活圏に対する強い関心があるのですけれど、世界に対して、世界は何のためにあるのか、この世界に対してどうして生きのびていけばいいのかという視野が狭い。それは氏神信仰の視野のひ弱さからきている。日本人の考えていることは、村で、せいぜい日本で日本であり、世界はどうあるべきかあまり考えていない。それが戦争に突入していくときに、やはり世界のあるべき姿というよりは、日本の利害関係意外は考えていない。ちょうど時間になりましたので、私の話はこれで終わります。

### 講師プロフィール

**川田 稔**（かわた むのる）

一九四七年高知県生。日本福祉大学教員を経て現在、名古屋大学大学院環境学研究所教授。

### 柳田國男関係の著作

『柳田國男のえがいた日本』、1998年、未来社。  
『柳田國男その生涯と思想』、1997年、吉川弘文館。

『柳田國男「固有信仰」の世界』、1992年、未来社。

『意味』の地平へ—レヴィ・ストロース、柳田國男、デュルケム』、1990年、未来社。

『柳田國男の思想的な研究』、1985年、未来社。

## 館だより

### 秋の特別展

#### 展覧会

#### ○松岡静雄と日露戦争展

今年の秋の特別展のテーマは「日露戦争」です。柳田國男の弟である松岡静雄も参加したこの戦争について紹介します。



〈松岡静雄が使用したとされる軍艦の望遠鏡（イギリス製）〉

**期 間** 平成22年10月24日（土）

～11月23日（月・振休）

**会 場** 柳田國男記念館2階

#### 講演会

#### 「日露戦争について」

開催中の特別展に関連して、20世紀初頭に行われた世界戦争である、日露戦争について、日本近現代史が

ご専門の井口和起氏にお話しいただきます。

**日 時** 平成22年11月14日（日）

14時00分～

**場 所** 柳田國男生家

**演 題** 「松岡映丘について」

**講 師** 井口 和起氏

（京都府立総合資料館長、前京都府立大学長）

### 伊勢大神楽

天照皇大神の御神徳を得て、神楽舞で火神を鎮め、四方のお祓い、家々の繁栄、村々の繁栄をお祈りします。

当日は辻川区氏神、鈴の森神社で奉納の舞、次に柳田國男と兄弟の生家を祈り清祓いをし、記念館前庭で獅子舞を納めてもらいます。

ご家族、

お友達など

お誘い合わせの上、多

数ご観覧ください。



**日 時** 平成22年11月21日（日）

13時30分から

**場 所** 記念館前庭

**観覧料** 無料

### 岩田健三郎版画教室

版画家、岩田健三郎氏の指導で、年賀状の版画教室を開きます。丁寧に教えていただけますので、絵の苦手な方でも大丈夫です。

**日 時** 平成22年12月6日（日）

14時00分から

**場 所** 記念館2階講義室

**費 用** 材料代 一枚 100円

**持参品** 筆記用具、彫刻刀をお持ちの方は持参してください。

彫刻刀をお持ちでない方はお申し出下さい。

※小学生の低学年の方は保護者と共に参加してください。

※事前申し込みが必要です。必ずお電話かご来館にてご予約ください。

会員以外の方は入館料が必要です。

申込みTEL 0790-22-1000

※表紙題字（辻川界隈）は版画家・

岩田健三郎氏の直筆です。

（柳田國男・松岡家顕彰会記念館）

〒六七九-1304

兵庫県神崎郡福崎町西田原一〇三八-11

TEL〇七九〇-1304

休館日 毎週月曜日と祝日の翌日

入館料 一般 200円 学生 150円

小人 100円

開館時間 午前9時～午後4時30分